



書評・新刊紹介

二羽 恭介 編著

シリーズ水産の科学④「ノリの科学」

本書は、「水産の科学」シリーズの第4弾として発刊されました。執筆者の皆さんは、長年ノリ養殖の現場やノリの分類、生理、生態、育種学的研究などに取り組んでこられた方々です。本書は、ノリの歴史、食文化、世界の養殖事情、生物学、養殖技術、遺伝育種、加工と栄養、生産動向と流通と、ノリに関連する分野を網羅しています。また、本書は、高校生や大学生、一般の方々を対象に書かれているため、とにかく丁寧でわかりやすく、非常に読み易いです。

個人的には、ノリの養殖技術の章は、読み応えがありました。地域によるノリ養殖の違いを含めて、ここまで詳細に書かれた書籍はなかなかないかもしれません。また、ノリ養殖の歴史と食文化の章も、昔からノリが利用され、大きな産業へ成長する経緯がよくわかります。

ここ数年、本書を含めノリに関する書籍がいくつか発刊されています。2000年頃にもやはりいくつかのノリの書籍が発刊されています。この20年で地球温暖化に伴う海水温の上昇による漁期の短縮、海域の低栄養塩による色落ちの頻発、魚類や鳥類などによる食害、これらに起因する生産量の減少等々、ノリの養殖環境は大きく変わりました。また、遺伝子関連分野の発展により、分類体系や育種法なども変化しました。そのため、本書には、最新のアマノリ類の分類を始め、漁場環境とノリ養殖の関係、突然変異育種の可能性についても触れられています。

本書は、各章を読むことでそれぞれのノリに関する内容を十分に理解できますが、最初から最後まで読み終えた時に私が感じたのは、「日本の海苔、大丈夫かな…」でした。ノリ養殖も近年は安定生産が困難になってきています。ノリだけでなく、日本近海では多くの水産物の漁獲量減少が続いています。漁業法も約70年振りに改正され、日本の水産業は変革の時を迎えています。日本の水産業の将来を真剣に考えていかなければ、今食卓に当たり前のように並んでいる食べ物がどんどん変わっていくかもしれません。改めてそう思いました。後で読み直したところ、編著者の二羽先生がまえがき部分に



朝倉書店
A5判 208ページ
2020年12月
定価：3,800円＋消費税
ISBN：978-4-254-48504-2 C3362

似たようなことを書かれていました。編著者の思惑に完全にはまっていたことになりそうです。

身近なノリの奥深さを感じ取れる一冊です。是非読んでみてください。

阿部 真比古 (水産研究・教育機構 水産大学校)